Calme

ジェットスチームアイロン

JET STEAM IRON

取扱説明書　保証書付　**MCE-3420**

この度はお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用下さい。お読みになった後は、大切に保管して下さい。

目　次

安全上のご注意

警告	誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。	注意	誤った取扱をすると、人が傷害 (※1) を負ったり、物的損害 (※2) の発生が想定される内容を示します。

※１傷害とは、治療に入院や長期の通院等を要しない、けがや火傷・感電等をさします。
※２物的損害とは、家屋や家財および家畜やペットにかかわる拡大損害を示します。

禁止	禁止 (してはいけないこと) を示します。	強制	強制 (必ずすること) を示します。

警　告

分解禁止	・絶対に分解・修理・改造は行わない。 ※製品の故障、感電や思わぬけがにつながるおそれがあります。
禁止	・子供等取扱に不慣れな方だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところで使用しない。 ※火傷や感電・思わぬけがの原因となります。 ・コードやプラグを破損するようなことはしない。 ※感電・ショート・火災の原因となります。 ・コードやプラグが痛んだり、コンセントの差し込みが緩い時は使用しない。 ※感電・ショート・火災の原因となります。 ・使用中のアイロンを布地の上に放置しない。 ※火災、また焦付や布地を傷める原因となります。 ・下記のようなコードの取扱いは絶対にしない。 ●コードを本体に巻き付ける。　●コードの上に物を置く。　●コードをきつく束ねたり結ぶ。 ●コードをドア等で挟む。　●コードを過度に曲げる。　●コードをねじる。
強制	・必ず交流 100V で使用する。 ・プラグは根元まで確実に差し込む。 ・プラグのほこり等は定期的にとる。 ・注水・排水の際は、必ずプラグをコンセントから抜く。 ・煙が出る・焦げたにおいがする等、本体に異常がある場合は直ちに使用を中止する。 ・使用中にタンクの水が無くなった場合は、電源ダイヤルを『切』にあわせ、プラグをコンセントから抜き、本体を完全に冷ましてから注水する。
プラグを抜く	・使用時以外はプラグをコンセントから抜く。 ・プラグを抜く時はコードを引っぱらない。※必ず先端のプラグ部分を持って抜いて下さい。
ぬれ手禁止	・濡れた手でプラグの抜き差しはしない。 ※感電の原因となります。
水ぬれ禁止	・本体を水につけたり、水をかけたりしない。 ※感電・ショート・火災・故障の原因となります。 ・絶対に水気のある場所、水がかかる可能性のある場所で使用しない。

注　意

禁止	・不安定な場所で使用しない。 ・破損したら使用しない。 ・タコ足配線はしない。 ・子供の手の届く場所に保管しない。 ・本製品を本来の使用目的以外には使用しない。 ・側を離れる場合は電源を切り、コンセントからプラグを抜く。 ・着用している衣類には使用しない。 ※火傷の原因となります。 ・絶対にスチームに触れない。 ※火傷・思わぬけがの原因となります。 ・使用中や使用直後はかけ面等本体の高温部には触らない。 ※火傷の原因となります。 ・人や動物に向けてスチームを噴射しない。 ※火傷・思わぬけがの原因となります。 ・アイロンを傾けたり逆さにしたりしない。 ※水漏れ、火傷・思わぬけがの原因となります。 ・本体を持ち運ぶ際は、充分に冷めていることを確認してから運ぶ。 ※火傷・思わぬけがの原因となります。 ・パイロットランプが点灯している間や２秒間隔よりも早くスチームショットボタンを操作しない。 ※湯滴が漏れて火傷や衣類を傷める原因となります。 ・アイロンの近くで、可燃性のガスが発生する物 (ベンジン等) や高圧ガススプレー等を使用しない。
強制	・お手入れ・保管は必ずコンセントからプラグを抜き、本体が完全に冷めてから行う。 ・温度を高温から低温に設定し直す場合は、一度電源を切り、かけ面を冷ます。※本体を冷まさずに低い温度に設定し直した場合、湯滴が漏れて火傷や衣類を傷める原因となります。 ・必ず安定した場所に置く。 ※不安定な場所や毛足の長い絨毯（じゅうたん）等の上に置くと、本体が倒れて火傷・けがの原因となります。

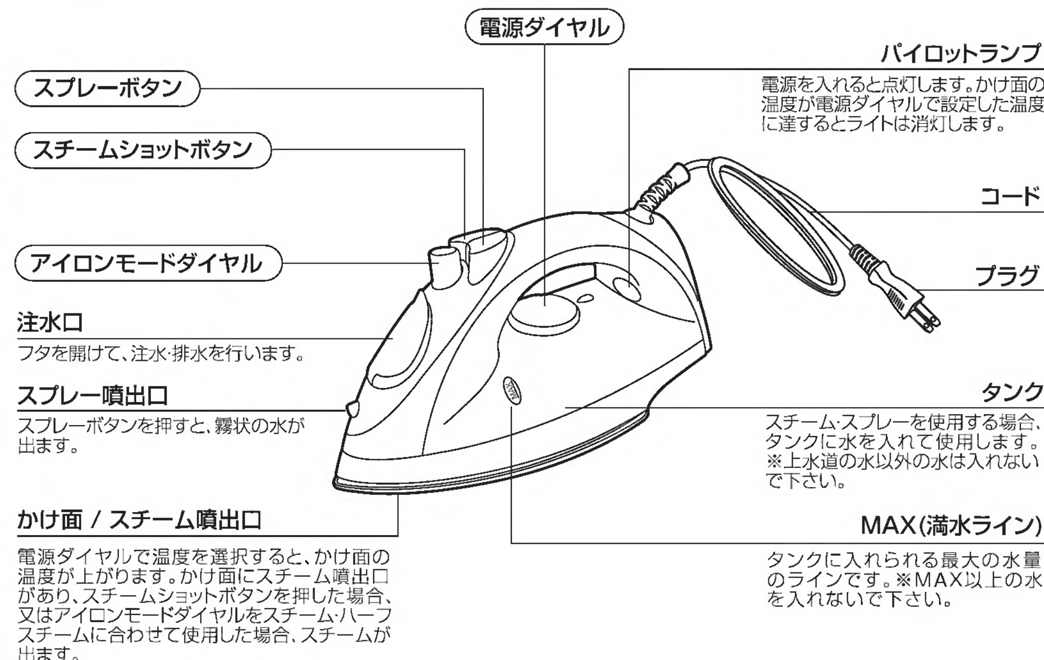
使用上のご注意

この内容を守らないと、製品の動作に問題が生じたり製品本体の故障につながります。

- 連続使用時間はお守り下さい。※連続使用時間は約 40 分間です。約 40 分間を超えて使用する場合は、本体の電源を切りプラグをコンセントから抜き、本体を完全に冷まして下さい。本体が完全に冷めた事を確認してから再度ご使用下さい。
- 稀にタンク内に水滴が残っている場合がありますが、これは出荷時の検品によるものです。製品の動作に問題はありません。
- 初めてご使用になる際は、本体やスチームから臭いがすることがありますが、品質上問題はありません。数回スチームを空噴きしてからご使用下さい。
- 使用後は必ずスタンドの状態にして本体を冷まして下さい。
- 熱に弱い物（紙・ビニールクロス等）の上等で使用しないで下さい。
- 同じ箇所に長時間アイロンやスチームを当てないで下さい。
- 布地を傷めないために、熱に弱い布地や色の濃い布地にアイロンをかける際は、目立たない部分に試しがけをし、必要に応じてあて布をしてからご使用下さい。
- 必ず上水道の水でご使用下さい。上水道の水以外の物 (ミネラルウォーターや香料を含んだリネンウォーター等) をタンクの中に入れないで下さい。
- タンクに水を入れた状態で、アイロンモードダイヤルを排水に合わせないようご注意下さい。誤って排水に合わせた場合、かけ面から水が大量に排水されますのでご注意下さい。
- 注水をする際は、必ずアイロンモードダイヤルをドライに合わせて下さい。アイロンモードダイヤルがドライ以外に合わせてあると、かけ面から水が漏れますのでご注意下さい。
- かけ面の温度が上昇していない状態 (パイロットランプが点灯している状態) で、アイロンモードダイヤルをスチーム・ハーフスチームに合わせると水漏れにつながりますのでご注意下さい。
- タンクに MAX 以上の水を入れないで下さい。
- タンクに水が残っていた場合、電源が『切』の状態やプラグをコンセントにつないでいない状態でも、スプレーボタンを押すとスプレー噴出口から水が出ますのでご注意下さい。
- 前回使用時の水がタンク内に残っていると、ドライに設定していても、はじめにかけ面から少量のスチームが出る場合がありますのでご注意下さい。
- アイロンモードダイヤルをスチーム・ハーフスチームに設定している状態でも、スチームショットボタンを押すとスチームショットがでますのでご注意下さい。この場合、ドライに設定している時よりも、スチームショットは弱くなります。
- 使用後は、十分に乾かしてから保管して下さい。※カビの発生、製品の劣化の原因となります。
- 使用後はお手入れをしてから保管して下さい。
- 高温になる所、湿気の多い所、直射日光の当たる所への保管や放置はおやめ下さい。
- 落とす・ぶつける等、製品本体に強い衝撃を与えないで下さい。
- お手入れの際にシンナー・ベンジン等の揮発性有機溶剤、またクレンザーやたわし等は使用しないで下さい。
- この製品は一般家庭用です。業務用、またその他の用途でのご使用はおやめ下さい。

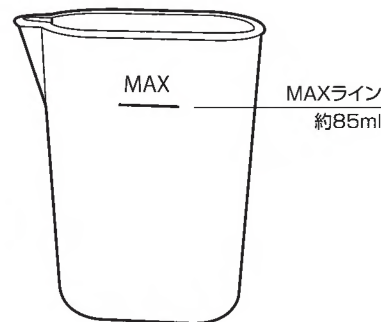
各部名称

本 体



注水カップ

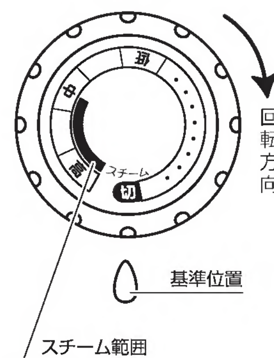
タンクへ水を注ぐ際に使用します。



※MAXラインまでの水を2杯注ぐと、本体のタンク容量(約170ml)になります。

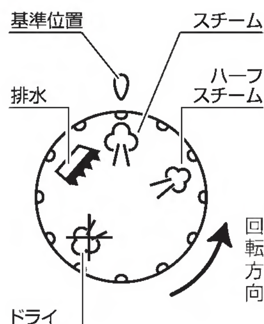
電源ダイヤル

用途に合わせて温度を選び、基準位置にダイヤルを合わせて使用します。



アイロンモードダイヤル

ドライ・スチーム・ハーフスチーム・排水を切り替えるダイヤルです。機能を選び、基準位置に合わせて使用します。



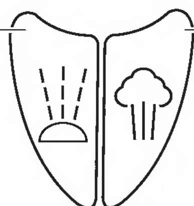
モード	電源ダイヤル	機　能
スチーム	中温〜高温	●スチームが出ます。 ●厚手の布地にあてる際に使用します。 ※電源ダイヤルはスチーム範囲(中〜高温)に合わせて下さい。
ハーフスチーム	中温〜高温	●スチームモードより弱いスチームが出ます。 ●薄手の布地にあてる際に使用します。 ※電源ダイヤルはスチーム範囲(中〜高温)に合わせて下さい。
ドライ	低温〜高温	●スチーム無しのドライアイロンです。 ※全ての温度設定で使用可能です。
	中温〜高温	●スチームショットボタンを使用する際は、スチームダイヤルをドライに合わせます。 ※電源ダイヤルはスチーム範囲(中〜高温)に合わせて下さい。
排水	切	●注水口から排水しきれなかったタンクに残った水を排水する際に使用します。 ※アイロンモードダイヤルを排水のマークに合わせると、かけ面からタンク内の水が排水されます。

スプレーボタン

●全ての温度設定(低〜高温)で使用可能です。
●ドライでの使用をおすすめします。
　※その他でも使用可能です。
●押すとスプレー噴出口から霧状の水が出ます。

電源ダイヤル	アイロンモードダイヤル
低温〜高温	おすすめは ドライ

※タンクに水が残っていた場合、電源が『切』の状態やプラグをコンセントにつないでいない状態でも、押すとスプレー噴出口から水が出ますのでご注意下さい。



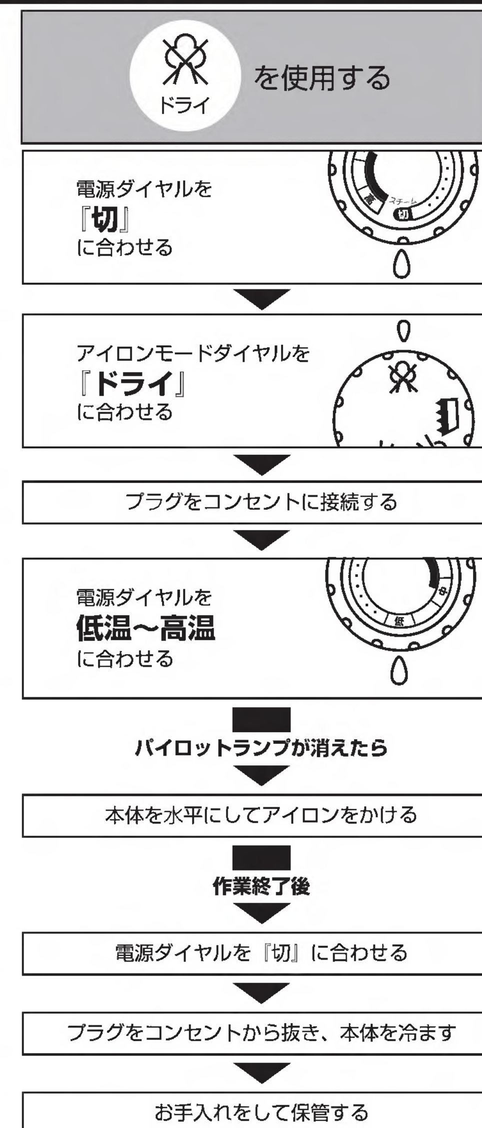
スチームショットボタン

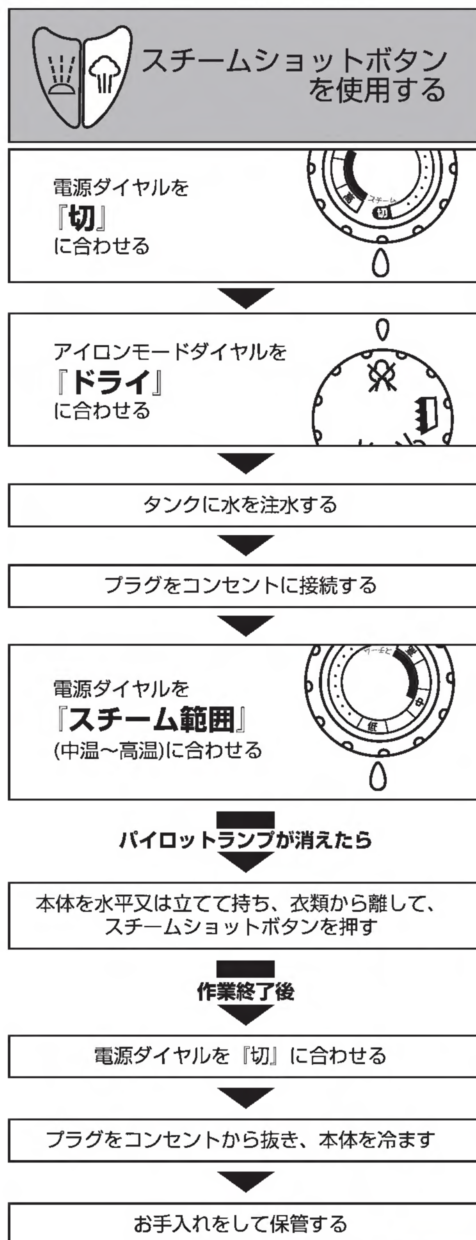
●温度はスチーム範囲(中〜高温)に設定して使用します。
●アイロンモードダイヤルは、ドライに合わせて下さい。
●押すとかけ面にあるスチーム噴出口からスチームが噴出します。

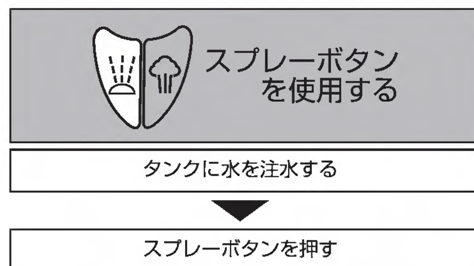
電源ダイヤル	アイロンモードダイヤル
中温〜高温	必ず ドライ

基本操作・操作の流れ









各手順の方法・注意点は、**使用方法** (P10～13)に記載しています。

使用方法 の手順1 ～ 手順7、**ご使用後は** (P14・15)のお手入れ1・2をよくお読みになり、ご使用下さい。

使用方法

※ 連続使用時間はお守り下さい。連続使用時間は約40分間です。約40分間を超えて使用する場合は、本体の電源を切りプラグをコンセントから抜き、本体を完全に冷まして下さい。本体が完全に冷めた事を確認してから再度ご使用下さい。

※ 布地を傷めないために、熱に弱い布地や色の濃い布地にアイロンをかける際は、目立たない部分に試しがけをし、必要に応じてあて布をしてからご使用下さい。

※ 使用中のアイロンを布地の上に放置しないで下さい。火災、また焦付や布地を傷める原因となります。

※ 初めてご使用になる際は、本体やスチームから臭いがすることがありますが品質上問題はありません。数回スチームを空噴きしてからご使用下さい。

手順1　電源ダイヤルを『切』に合わせます。

手順2　タンクに水を注水します。

※ドライアイロンで使用する場合は、注水する必要はありません。

※ 注水は必ずプラグをコンセントから抜いた状態で行って下さい。
※ 使用中にタンクの水が無くなった場合は、電源ダイヤルを『切』にあわせ、プラグをコンセントから抜き、本体を完全に冷ましてから注水して下さい。

● 必ず注水の前に、アイロンモードダイヤルをドライ ( ) に合わせて下さい。(図1参照)
　※ 必ずアイロンモードダイヤルをドライに合わせて下さい。アイロンモードダイヤルがドライ以外に合わせてあると、かけ面から水が漏れますのでご注意下さい。

● 注水口のフタを開け、注水カップでタンクに水を注水して、フタを閉めて下さい。(図2参照)
　※ 本体を斜めに立てて注水して下さい。
　※ MAXライン以上の水を入れないで下さい。
　※ 必ず上水道の水でご使用下さい。上水道の水以外のもの(ミネラルウォーターや香料を含んだリネンウォーター等)をタンクの中に入れないで下さい。

● 注水後、本体のかけ面やグリップが濡れている場合は、拭き取って下さい。

図1

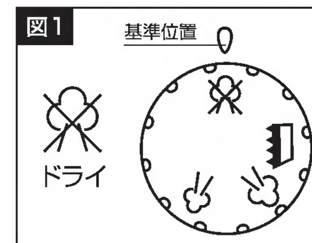
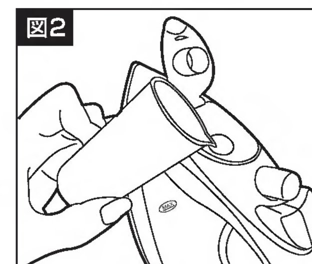


図2



手順3　プラグをコンセントに接続します。

手順4　温度を設定します。

● 温度の設定は、本体をスタンドの状態にして行って下さい。(図3参照)

● 電源ダイヤルを回し、使用する温度を基準位置に合わせて下さい。
⇨ 温度を設定すると、パイトッロランプが点灯し、かけ面の温度が上昇しはじめます。
※ 使用するアイロンモードダイヤルに応じた温度を設定して下さい。(下図参照)

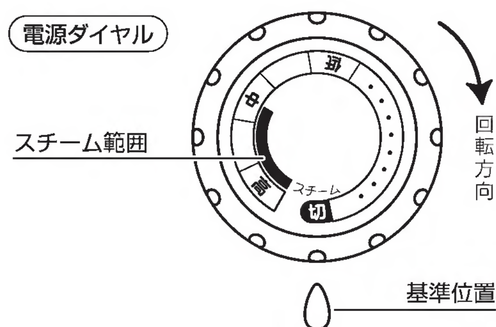
● 温度の設定は、必ずアイロンモードダイヤルがドライの状態で行って下さい。アイロンモードダイヤルの設定は、かけ面の温度が設定した温度まで上昇しパイロットランプが消灯した後に行います。
※ かけ面の温度が上昇していない状態(パイロットランプが点灯している状態)で、アイロンモードダイヤルをスチーム・ハーフスチームに合わせると水漏れにつながりますのでご注意下さい。

図3



スタンドの状態

スチーム で使用する場合	スチーム範囲(中温～高温)
ハーフスチーム で使用する場合	スチーム範囲(中温～高温)
ドライ で使用する場合	低温～高温



※ 温度を高温から低温に設定し直す場合は、一度電源を切り、かけ面を冷まして下さい。本体を冷まさずに低い温度に設定し直した場合、湯滴が漏れて火傷や衣類を傷める原因となります。

※ 前回使用時の水がタンク内に残っていると、ドライに設定していても、はじめにかけ面から少量のスチームが出る場合がありますのでご注意下さい。

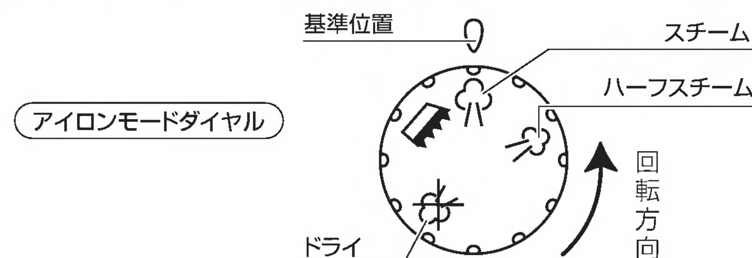
手順5　アイロンモードダイヤルでアイロンのモードを設定します。

※ タンクに水を入れた状態で、アイロンモードダイヤルを排水に合わせないようご注意下さい。誤って排水に合わせた場合、かけ面から水が大量に排水されますのでご注意下さい。

● アイロンモードダイヤルの設定は、本体をスタンドの状態にして行って下さい。

● かけ面の温度が電源ダイヤルで設定した温度になるとパイロットランプが消灯します。パイロットランプ消灯後、使用するアイロンモードを基準位置に合わせて下さい。
※ スチーム・ハーフスチームを使用する場合は、電源ダイヤルをスチーム範囲(中～高温)に合わせ、必ずパイロットランプ消灯後にアイロンモードダイヤルを回してモードを設定して下さい。電源ダイヤルが低温の状態や、パイロットランプが点灯している間にアイロンモードダイヤルをスチーム・ハーフスチームに合わせると、かけ面から湯滴が漏れる可能性があります。

スチーム	●スチームが出ます。　●厚手の布地にあてる際に使用します。 ※電源ダイヤルはスチーム範囲(中～高温)に合わせて下さい。
ハーフスチーム	●スチームモードより弱いスチームが出ます。　●薄手の布地にあてる際に使用します。 ※電源ダイヤルはスチーム範囲(中～高温)に合わせて下さい。
ドライ	●スチーム無しのドライアイロンです。　※全ての温度で使用可能です。



手順6　アイロンをかけます。

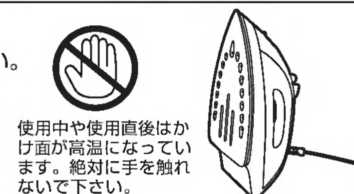
● 本体を水平にし、衣服の上をすべらせてアイロンをかけて下さい。
※ スチーム・ハーフスチームを使用する際、アイロンを水平にしないとスチームが出ませんのでご注意下さい。

● 必要に応じて、スチームショットボタン･スプレーボタンをご使用下さい。(使用方法は次ページ参照)

手順7　(作業終了後)電源ダイヤルを『切』に合わせ、プラグをコンセントから抜きます。

● 作業終了後は、アイロンモードダイヤルを、ドライに合わせて下さい。

● 本体をスタンドの状態にして置き、熱を冷まして下さい。



スプレーボタンを使用する

■ 頑固なシワをとる ■

厚い綿等しっかりした生地についたシワを取る際は、スプレーボタンを使用します。

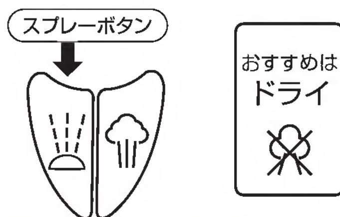
● (タンクに水が入っていない場合は)手順2に従い、タンクに水を注水して下さい。

● タンクに水が入っている状態でスプレーボタンを押すと，スプレー噴出口から霧状の水が出ます。

※ アイロンモードダイヤルをスチーム・ハーフスチーム・ドライのいずれに設定した状態でも使用可能ですが、霧状の水を吹きかけますので、ドライでのご使用をおすすめします。

※ タンクに水が残っていた場合、電源が『切』の状態やプラグをコンセントにつないでいない状態でも、押すとスプレー噴出口から水が出ますのでご注意下さい。

● スプレーをかけた後、アイロンをかけて下さい。



スチームショットを使用する

■ セーターやコートを整える■

セーターをふっくら仕上げる場合や、コート･ジャケットを整える際は、スチームショットを使用します。

● (タンクに水が入っていない場合は)手順2に従い、タンクに水を注水して下さい。

● アイロンモードダイヤルをドライ、電源ダイヤルをスチーム範囲(中～高温)に合わせて下さい。

※ 必ずアイロンモードダイヤルをドライに、電源ダイヤルをスチーム範囲(中～高温)に合わせて下さい。それ以外の設定でスチームショットを使用すると、かけ面から湯滴が漏れる可能性がありますのでご注意下さい。

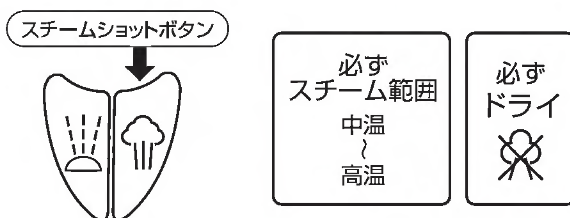
● タンクに水が入っている状態でスチームショットボタンを押すと、かけ面のスチーム噴出口からスチームショットが出ます。

※ 本体を水平にした状態でも、立てた状態でもご使用頂けます。

● かけ面を衣類から離して、スチームショットをかけて下さい。

※ 目立たない箇所で試しがけをしてからご使用下さい。

※ スチームショットボタンは、パイロットランプが消灯している間に操作して下さい。また、続けてスチームショットボタンを押す場合は2秒以上間隔をあけて下さい。パイロットランプが点灯している間や、2秒間隔よりも早くスチームショットボタンを操作すると、湯滴が漏れて火傷や衣類を傷める原因となります。



※ アイロンモードダイヤルをスチーム･ハーフスチームに設定している状態でも､スチームショットボタンを押すとスチームショットができますのでご注意下さい｡この場合､ドライに設定している時よりも､スチームショットは弱くなります｡

※ 使用中にタンクの水が無くなった場合は、電源ダイヤルを『切』にあわせ、プラグをコンセントから抜き、本体を完全に冷ましてから注水して下さい。

ご使用後は

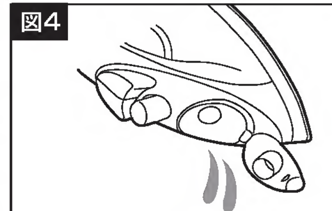
お手入れ1 タンク内を乾かす。

● ご使用後は､アイロン内部やかけ面の腐食･カビの発生を防ぐため､下記の作業を行ってから保管して下さい。

※ 作業は必ずコンセントからプラグを抜き、本体が完全に冷めてから行って下さい。

① アイロンを十分に冷まします。

② 注水口のフタを開け､排水します。(図4参照) 排水後､注水口のフタを閉めます。

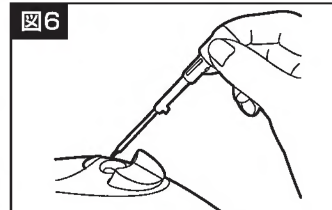


③ アイロンモードダイヤルを排水(図5参照)に合わせ､本体から引き抜きます。(図6参照)

⇨注水口からの排水では排水しきれなかった水が､かけ面から排水されます。水が出なくなるまで排水して下さい。



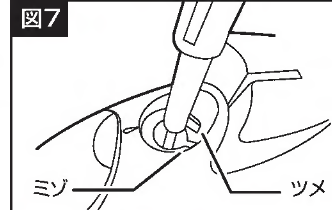
④ かけ面から水が出ないことを確認し､アイロンモードダイヤルを本体に取り付けます。ダイヤルのツメと本体のミゾを合わせて差し込み(図7参照)､押しながら時計回りに回して本体に取り付けて下さい。(図8参照)



⑤ スプレーボタンを水が出なくなるまで押します。

⑥ プラグをコンセントに差し込み､電源ダイヤルを高温に合わせます。

⑦ アイロンモードダイヤルをスチームに合わせて本体をスタンドの状態で置き､約5分間通電します。



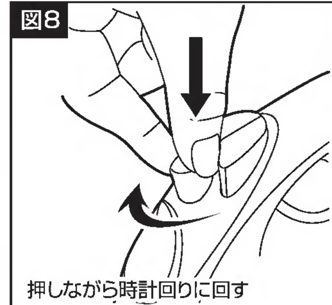
⑧ アイロンモードダイヤルをドライに合わせ､スチームショットボタンを押して､スチームが出ないことを確認します。

※スチームが出る場合は､出なくなるまでスチームショットボタンを押して下さい。

⑨ 電源ダイヤルを『切』に合わせ､プラグをコンセントから抜き､本体を十分に冷まします。

⑩ アイロンモードダイヤルがドライになっていることを確認し､保管します。

※タンクに水が残っていた場合の水漏れ防止のため､アイロンモードダイヤルはドライに合わせて保管して下さい。



お手入れ2	本体の汚れを拭く。

※ 必ずプラグをコンセントから抜いた状態で行って下さい。
※ 必ずアイロンのかけ面が十分に冷めた状態で行って下さい。
※ 本体は防水ではありません。本体を水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
※ お手入れの際にシンナー･ベンジン等の揮発性有機溶剤、またクレンザーやたわし等は使用しないで下さい。

● 本体の汚れは、柔らかい布で乾拭きするか、水を含ませて硬くしぼった布で拭いて下さい。
● スプレーのりを使用した際のかけ面の汚れは、その都度水を含ませて硬く絞った布で拭き取って下さい。

絵表示の見方例

■ 絵表示の見方例

低	指定された温度で当て布をして、アイロンをかける。	低 裏から	指定された温度で布地の裏からアイロンをかける。		アイロン使用不可。
その他「スチーム禁止」等の表示がある場合は、その指示に従って下さい。					

■ 絵表示の見方と温度の関係(ドライ使用時)

絵表示	低	中	高
布地･繊維の種類	アセテート トリアセテート ビニロン アクリル アクリル系 ポリプロピレン ポリウレタン ポリクラール ベンゾエート	絹 毛 ナイロン レーヨン ポリノジック キュプラ ポリエステル	綿 麻
温度設定位置	低	中	高
かけ面の温度範囲	約80℃～120℃	約120℃～160℃	約160℃～210℃
設定温度到達時間	約20秒	約40秒	約50秒

※ 設定温度到達時間は、本体が冷めた状態からの時間です。また、時間はあくまで目安です。使用環境によって異なりますのでご注意下さい。
※ 混紡の場合は、対応温度が低い繊維に温度を合わせて下さい。
※ 絵表示が無い生地には、電源ダイヤルを「低」に合わせてご使用下さい。
※ 使用中にアイロンをかける手を布地の上で止めたり、極端にゆっくり動かしたりすると、布地に合った温度でも布地を傷める原因となりますのでご注意下さい。

※ 使用中のアイロンを布地の上に放置しないで下さい。火災、また焦付や布地を傷める原因となります。
※ 側を離れる場合は必ず電源を切り、コンセントからプラグを抜いて下さい。

MEMO

仕　様

寸　法	約W11.5×D14.5×H26cm　約140cm（コード）
重　量	約750g
材　質	ABS　PP　PC　PBT
電源方式	交流式
定格電圧	100V
定格周波数	50/60Hz
定格消費電力	1000W
タンク容量	約170ml
噴出量	スチーム：約10～15ml/分　ハーフスチーム：約8～12ml/分
	スチームショット：約0.5ml/回　スプレー：約0.4ml/回
蒸気発生方式	滴下式
温度過昇防止装置	温度ヒューズ 228℃
温度範囲	約80～210℃(低温～高温)
連続使用時間	約40分間